

## 【今後の調査・施策に関する主な意見】

- ・まとめが3点ほど書いてあるが、この準備会の意見は、基本的にそのまま本会議で参考にすることになっているのか。(三重県交通政策室 小林委員代理)
- ・「郊外での大型店舗立地規制」と書いてあるが、実際にマッチしていかないものを四日市さんに規制するのは難しいと思う。ここに整理するのに問題はないのか。  
(三重運輸支局 福田委員)
- ・三重県では将来のビジョンとして、コンパクトシティを主眼に置いたマスタープランをつくっていく。  
このマスタープランは20年後の将来像を目指して立て、県全体のマスタープランの見直し、並行して行われている四日市市都市計画マスタープランの見直しとリンクしているものと思っている。(三重県都市政策室 井浦委員)
- ・自動車利用の抑制策として国道23号を1車線にして、渋滞させることも考えられる。今後、市街地での運行を維持しながら、需要が薄い所の対策が必要と考えている。湯の山線沿線、鉄道と並行している路線を、駅を中心としたピストンにしたらどうなるのかなどの検討も必要である。(三重交通 西田委員)
- ・今後の取組として、四日市大学から東芝工場まで1区間の延長を予定している。  
(三岐鉄道 雨澤委員)
- ・交通の妨げにならない所ではフリー乗降を検討していく。  
(生活バス四日市 西脇委員)
- ・四日市から放射線状にできているバスではなくて、例えば、電車の駅への小さな路線とか、大きく言えば、三岐さんと近鉄内部線をつなぐとか、もしくは桑名から出ている電車につながるとか、その間をバスでつなぐとか、そういうループ化をすれば、市民がいろいろな意味でもっと楽しむことができるのではないかと。  
(生活バス四日市 西脇委員)
- ・通常ビジョンであれば、想定する5年、10年という落としどころにビジョンを持ってきて、具体的に議論をやる。それぞれの施策について、これは2年先にできること、あるいは5年先にできることという落としこみが必要ではないかと。  
(三重運輸支局 福田委員)
- ・JR駅と近鉄駅の直通のレンタサイクルがいいという表現にもなっていたが、駅からバスなどの公共交通を活用しながら、基幹以外の地域周辺に対しては、路線のない地域に対してはレンタサイクルも十分に利用価値がある。それぞれの公共交通としての役割分担をしっかりと整理した上で、それぞれの活用策を検討していく位置づけが必要である。  
(三重運輸支局 福田委員)
- ・桜地区ではボランティア輸送が非常に好評を得ている。これから小さな地域での移動手段は、ボランティアとかで処理されていると。もちろんガソリン代とかの少量の実費は要るが、車両は自分のもので、運転手も自分がやってボランティアで輸送することが合法的な方法なのかどうか。  
今後のあり方として、その辺がオーケーであれば、今後さらに市内に広がっていくと思う。(生活バス四日市 西脇委員)
- ・NPO等による過疎地有償運送を運営協議会の中で議論して認められるなら、それは登録制度ということで乗っかっていくが、一般的に考えれば、四日市地域は既に公共交通が充実していて、タクシー事業者さんもたくさんあるので、この地域にNPOを中心にした過疎地有償運送を取り入れるのは非常に難しいし、既存の公共交通の利活用の方が重要と思っている。(三重運輸支局 福田委員)

- ・四日市の中の交通が希薄な地区では、例えばバスやタクシー、自転車で近くの最寄り駅まで行って、鉄道を乗り継いで名古屋まで出るが、そこに行き着いてから駅での乗り継ぎの利便性や運賃体系に対する戦略があれば、交通事業者としては非常にありがたい。  
(三岐鉄道 雨澤委員)
- ・基本となる都市像の中に、交通の安全性とかに向けて、例えば2車線道路を歩行者が回遊できる場所にしようと思うと、1車線にして、歩行空間をつくるとか。そういう観点もあっていいと思う。(中部地方整備局 都市整備課 辻オブサーバー)
- ・事故が少なくなるような道路整備をしてほしい。(三重県警察本部 野浪委員)
- ・今の四日市を見ていると、公共交通機関はすべてのところが網羅され、近鉄内部線、湯の山線、バスもある程度のところへは足を延ばしている。非常に交通の便がいいが、その沿線に住んでいる人すら自家用車を使っているの、鉄道とかバス路線の沿線に住んでみえる住民が大いに公共交通機関を使うような切りかえを、自治会としてもやっていきたいと思っている。(四日市自治会連合会 高野委員)
- ・一昔前は駅の中で、ホームで隣近所と顔を合わせて井戸端会議的なお話をする。あるいは駅員さんとお話をするというコミュニケーションの場であったと思う。  
無人化した駅舎を利用して、喫茶店をやったり、居酒屋をやったり、あるいは温泉を掘り当ててお風呂を開業しようということも聞いている。そういうことも考えることが必要と思う。(四日市自治会連合会 高野 委員)
- ・この都市像をつかまえていく中には、我々が一生懸命言っても、やっぱり利用者が使っていないと話にならない。  
アンケートをとるのであれば、どうして利用者実感と合わないのかというところをきっちり聞いて、鉄道の中には反映していただくことが必要である。  
(三重河川国道事務所 奥出委員)

#### 委員長のご意見

- ① 自動車のいじめというのは、私の意見でもあるが、重要なのは「市民との合意のもとに」ということで、地域の方々の声が出てくれば、そういったことも必要と思っている。
- ② 第一歩として大事なのは、それぞれの事業者がいろいろな取り組みをやっていて、その情報を共有することで、行政が支えることができるかが見えてくる。  
そういう意味で、この交通総合戦略準備会で情報を共有するのが第一歩である。
- ③ 自動車から公共交通への手段転換、あるいは自転車・徒歩への手段転換等々が図られるが、現実的になかなか公共交通への手段転換は進まない。このようなことへの対処として多くのところでモビリティ・マネジメントを実施している。  
また、JRと近鉄の間をレンタサイクルで利便性を上げると、バスの存続が問題になってくる。パイが少ない中では取り合いにならないように、その辺をしっかりと明確に役割分担した方がいい。
- ④ 生活バス四日市のような住民ニーズに合った運行が実現できる枠組みができていますので、これを活用して、市街地部における空白地域での交通移動の足の確保を進めていけばよい。
- ⑤ 人々の行動規範を考え直さないといけない時代に来ていると思う。自分にとって最適な交通手段だけを求めればいいのではなくて、少し違う視点で行動規範を考えらうことが必要と思う。

- ⑥ 名古屋を周辺とした市町は名古屋への流動が大きくて、人口も張りついている。一方で、全部名古屋に吸い取られて、買い物を自分の町ではなくて名古屋に行ってしまうといいということも起きているので、そういうのも総合的に含めてどうするのがいいのか議論が必要である。
- ⑦ 道路の空間の使い方をいま一度、地域の人々のために使うといったものも重要ということ盛り込むのはどうか。
- ⑧ 交通事故は道路構造とか町の構造に負うところが大きいと感じている。  
今後、道路の役割、新しい機能、安全な交通環境を実現していただきたいので、交通像の中に言葉として入れてほしい。
- ⑨ 住民の気持ちを変える、具体的な施策として進めていくために、ぜひ住民の方々としては、どうすれば気持ちが変わってもらえるのか。その辺のアイデアを一緒に考えたいと思う。
- ⑩ 公共交通を幾らよくしても移らない。そもそも車しか使わない人たちの意識を変えようと思ったら、何によって何が変わるのかをちゃんと伝えていかないといけない。そういう意味で住民の方々との協力が欠かせない。